

トマト（夏秋被覆栽培）の病害虫の発生状況（9月中下旬）

1 灰色かび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図1）。今後、気温の低下に伴い施設を閉めきることが多くなり、湿度が上昇しやすくなるので、換気を行うとともに、発病葉は摘除し、ほ場外で処分してください。

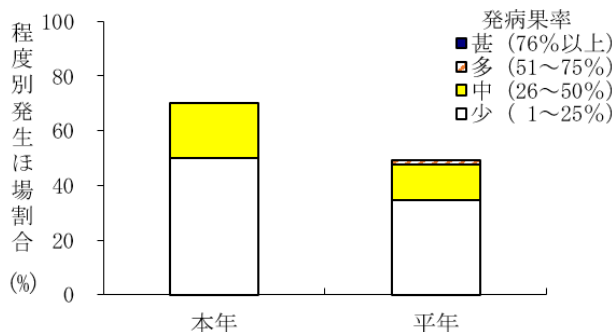


図1 灰色かび病の果実被害の発生状況

2 葉かび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。多湿条件により発生しやすくなるので、換気を十分に行ってください。抵抗性品種を作付けしているほ場でも発病がみられた場合には、葉かび病かすすかび病かを確認し、適切な薬剤を選択して防除してください。

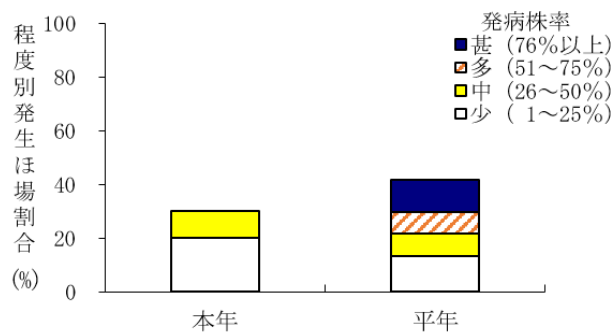


図2 葉かび病の発生状況

3 すすかび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図3）が、発生しているほ場では発病度が高い状況でした。多湿条件により発生しやすくなるので、換気を行ってください。発生が確認された場合には、適切な薬剤を選択して防除してください。

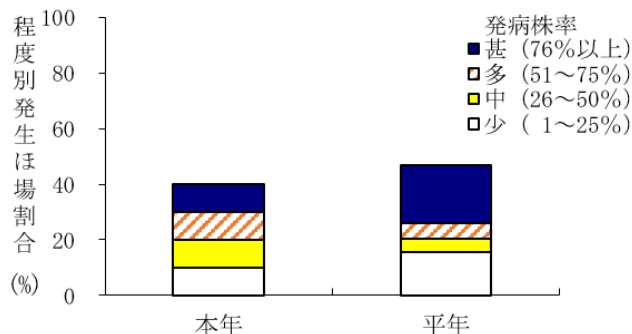


図3 すすかび病の発生状況

4 アブラムシ類

巡回調査では、発生は確認されませんでした（図4）。ほ場をよく観察し、発生が多くなった場合には、速やかに防除を実施してください。

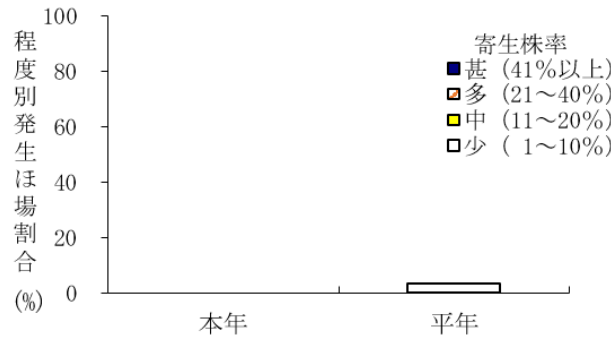


図4 アブラムシ類の発生状況

5 コナジラミ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。寄生種がタバココナジラミの場合は、着色異常果の発生やトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するので、注意してください（病害虫防除所 HP に掲載している病害虫防除情報「注意喚起 トマト黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」をご覧ください）。

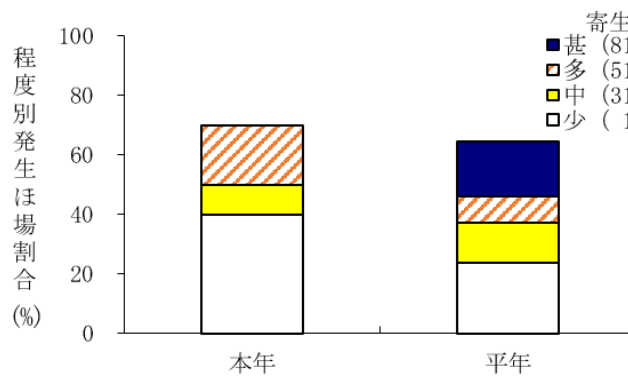


図5 コナジラミ類の発生状況

6 アザミウマ類

巡回調査では、発生は確認されませんでした（図6）。防虫ネットの設置が定着していますが、ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施してください。

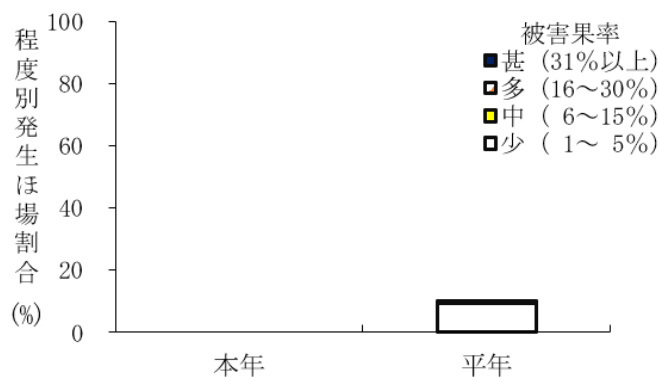


図6 アザミウマ類の果実被害発生状況

7 ハモグリバエ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図7）。まん延すると防除が困難となるので、発生が見られる場合には防除を実施してください。

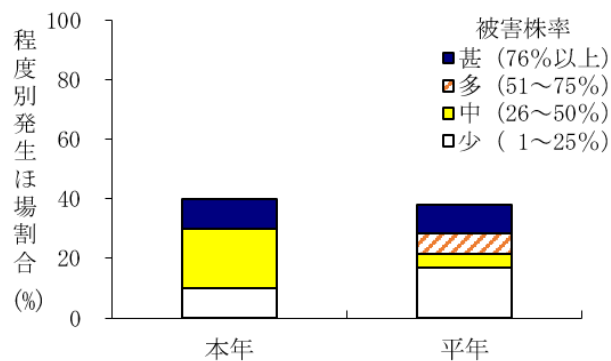


図7 ハモグリバエ類の発生状況

8 オオタバコガ

巡回調査におけるトマト果実の発生ほ場割合は、平年並でした（図8）。伊達市のキクフェロモントラップ調査では、8月3半旬から誘殺数が多くなっています（図9）。発生が確認された場合には防除を実施してください。

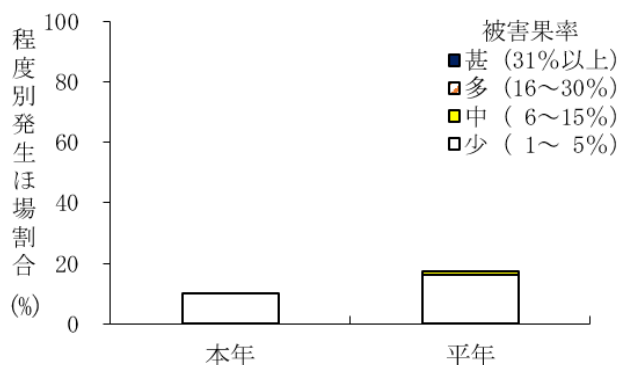


図8 オオタバコガの果実被害発生状況

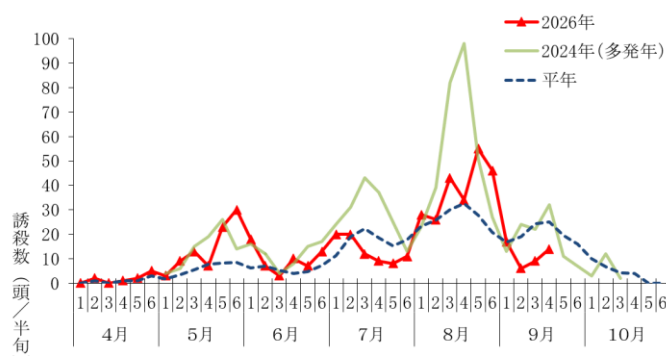


図9 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(伊達市保原町:キク)
※平年のうち4月のデータは2025年のみ

注意が必要な病害虫

■ トマトキバガ

猪苗代町のフェロモントラップにおいて、8月5半旬頃から誘殺数が増加傾向となっています（図11）。また、南会津町のフェロモントラップにおいて、9月2半旬頃から誘殺数が増加傾向となっています（図12）。加えて、県内の複数地点において葉や果実の食害が確認されています（写真1）。ハモグリバエ類の食害痕と間違えやすいため症状をよく確認し（写真2）、トマトキバガに適用のある薬剤を選択した上で防除しましょう。

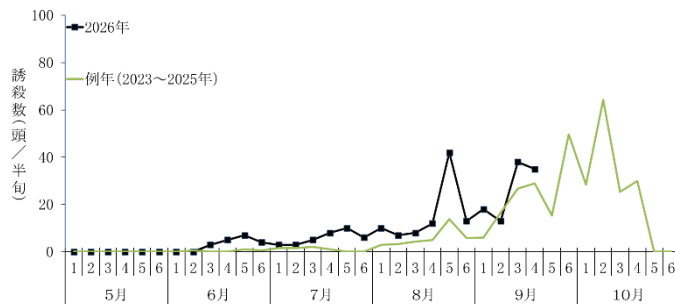


図11 フェロモントラップによるトマトキバガ誘殺状況
(猪苗代町川桁: トマト)
※例年のうち2023年は7月まで未調査

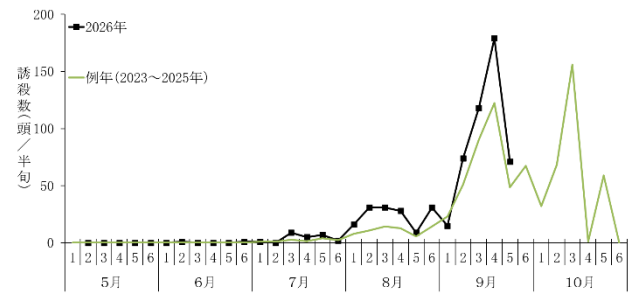


図12 フェロモントラップによるトマトキバガ誘殺状況
(南会津町水根沢: トマト)
※2023、2024年は南会津町界のほ場に設置
※例年のうち、2025年10月4半旬は欠測
※2026年5月1半旬は欠測



写真1 トマトキバガ幼虫による
被害葉（面状）



写真2 ハモグリバエ類幼虫による
被害葉（線状）

※ 夏秋トマトの巡回調査では、下記の 11 ほ場を調査しています。

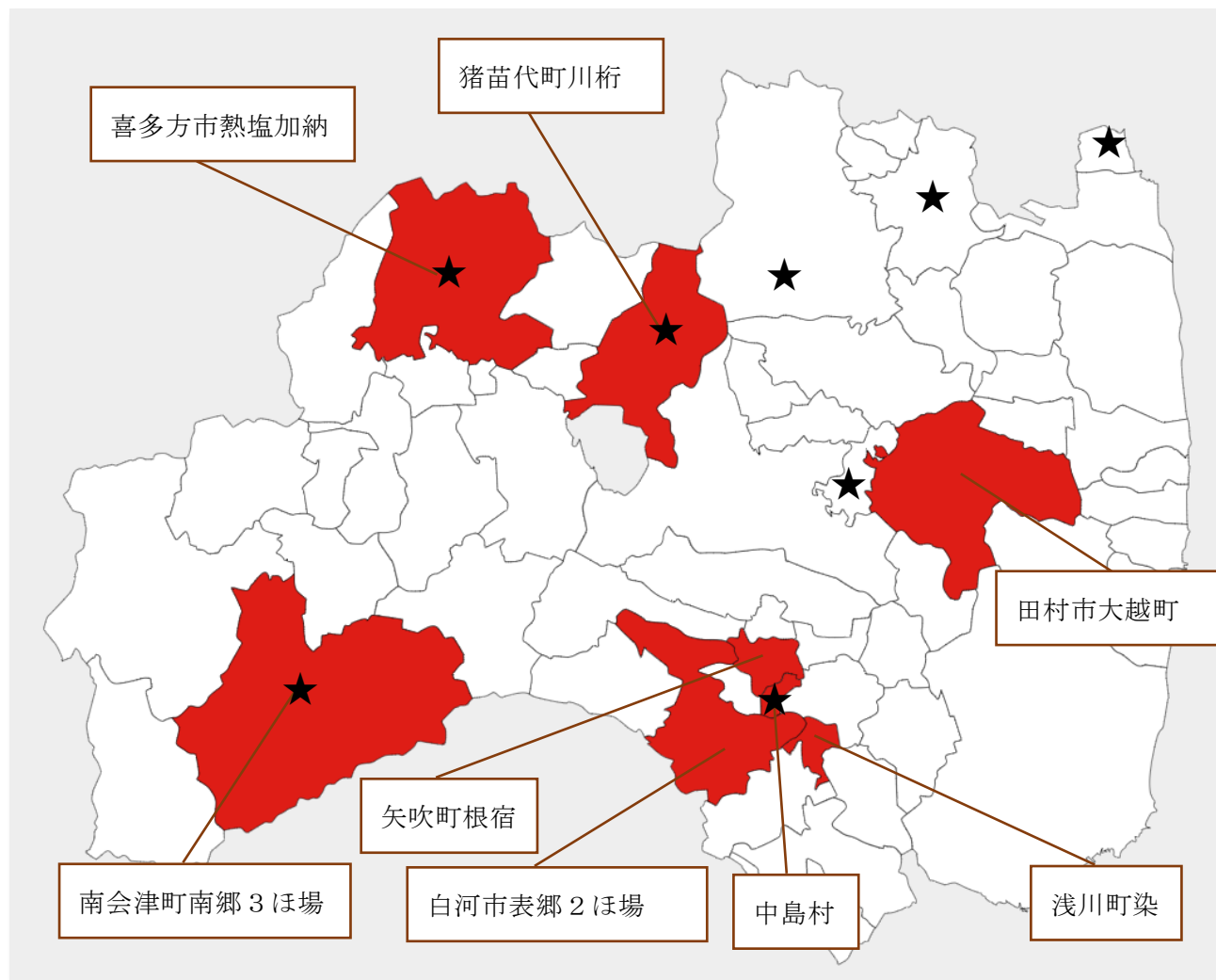


図 夏秋トマトの巡回調査地点

※網掛け：夏秋トマト巡回調査地点、8 市町村、11 地点

※★：オオタバコガのフェロモントラップ調査地点、8 地点

- 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所までご連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp